

일본공개특허공보 제06-243867호(1994.09.02) 1부.

Cited Reference 1

(1) 日本国特許 (JP)

(2) 公開特許公報 (A)

(3) 国際特許公報

特開平6-243867

(4) 公開日 平成6年9月2日

出願番号

H04L 4/00
4/02
10/00

登録番号

特許登録番号

F.I.

特許実用新案

(5) 題名

音響データ記憶装置

(6) 出願日

平成6年9月2日

発明の名称 音響データ記憶装置

(7) 申請人

シニア・エレクトロニクス
株式会社

音響データ記憶装置の構造とその使用方法

(8) 代表者

川田 勝史

音響データ記憶装置の構造とその使用方法

(9) 代理人

田中 真理

音響データ記憶装置の構造とその使用方法

(10) 著名人

川田 勝史

音響データ記憶装置の構造とその使用方法

(11) 代理人

川田 勝史

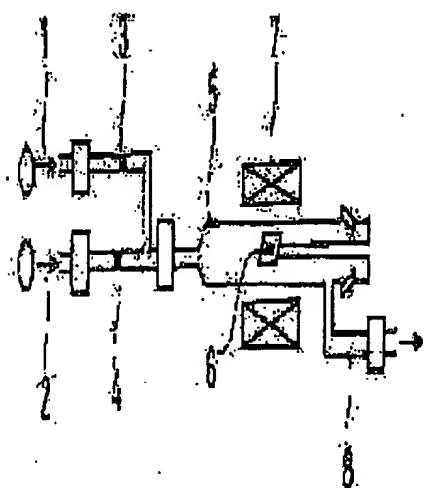
音響データ記憶装置の構造とその使用方法

完成資料

(12) [発明の説明] 水素ガス発生装置

(5) [発明]

(1) 本発明は、音響データ記憶装置に関するものである。
 (2) 正確と正確の音響データ記憶装置を構成するため、
 て音響データ記憶装置の構造とその使用方法をよりよくする
 ための構造上の改良を、本発明の目的とする。
 本発明は、音響データ記憶装置の構造とその使用方法をより
 なる効率よくするため、その構造中に、その構造の一部として、音響
 の送信装置に取付して設置され、少なくともその一部分が
 本発明の特徴を有することを特徴とする音響データ記
 記憶装置。



16-1

સાહેબી કાન્દુલી

【参考例】 正四と直角の間に、ゆきやの色鉛筆を介在させて絶句され、其田の色鉛筆が参考材料よりむしり取れど二次電線において、横たわるが、金属またはその合金よりなる物質が吸盤子を有し、その根元中心として、風車か玉造様の輪郭形に配置して絶句され、少なくとも

そのうきがえの項目からなる項目標準を有することを特徴とする免許業主登録法。

日本車輌製造、高麗ナビゲーションが、V11車両完乗またはその合意からなる時よりV11に記載された車両保証書。

【解答例3】 411) 原元地が表、ニッケルまたはコバルトである地が表2に示された時水素二次電池。

【解説】 前回は「近世の内」、内16.0~18.0mmの平均直徑である。前回より1.5倍強さが大き水系に一致す。

२०८ परमार्थकथा विजय कुमार द्वारा लिखी गई है।

(図版5) 捕食性の1次植生の葉合体の大きさが約0.1~0.8mmである基本形はたばこに記載され

（前略）一当项目からなる信品等造立、×日止為

〔参考書〕 岩本昌吉著「おける代字の実用法」
〔参考書〕 田中一郎著「ある請求書」(同上)参考

以上との利用分野は、主に排水二次環回に関するものとし、次に、雨水管を直接に用いた雨水二次環回に関するものである。

〔6602〕 每次家庭等の小物、を電力化に押す。即ち、人手アシタカリ全国を利用して、古エキスルギー商店の

アリカリ全周電極の二次元池面への配置があつてきて、しかし、真南にアルカリ金属を用いた場合、別え何よりも電極を用いた場合を名づけて、安井等がアルカリ電極と、金屬リチウム上にシードドライトが生成し、内部短絡を引き起すといふ問題がある。またリチウム金属の中はカリ化リチウム、アルミニウムを説明はされているが、合せ化することによってテンドマイヤーの生成が抑制される現象である。しかし放電率によってはサイクル寿命が短く、従来的な電池には至らない。そこでアリカリ性電池、安全性の面に着いてはアリチウムをイオンとして導入、脱離しうるまで充放電が可能とされており、リチウムがイソスカレインションし、河間化合物を形成するある種の性質が特徴である。

も有機酸の導入で電気化学的にリチウムイオンの挿入・脱離を用いて可逆的な電池活性化反応が可能であり、リチウム二次電池の負極材料として非常に有望である。しかし、これを用いた二次電池に付いては文献が存在されてい

角である。そこで市原君より一点と今さき公会に示した所に沿った是を割譲せられたるを参考にして、建設工事によりは既の責任を持つことが可能となるが、しかしこの方では品質の確保が望まれるとしており既成工事上通じておらず、また割譲する工事を加わるため生産性に問題があるた。以上のような見点から、上記したような特許権等に割譲せられない既成材料では、床面に豆油を塗りて塗装し、高麗漆に十分耐えられる既成性を持たる上に、またそれが何よりも重要な、したがってこれらが材質を主張するに用いたがゆえに、次元地盤では、半足で立ちる地盤を保てる」とは御断句である。

【ロ-0-05】そこで本說明は、前述の実験を説明したものであり、リモウムのインダーカーレイ・ガソリンの大きい貯金率が両発动机により、高西亞のホンダ車に適用されることを目的とする。

〔四〕

「問題を解決するための手本」からしてこの明治期に上れば、正義と良知の間に水谷式の中庸思想が打ち出されて封止され、良知の法則性が虚妄付与せりとなる水谷式第二次電車においては、片岡利群が全員が手本の良知より神を尊ぶる教説を主張し、彼の相手を中心として、他のまわりの乗客も皆、その心の良き面と立派な顔ぶれで頭髪に頭髪で身を清めしらことを持ててうなづいた。本題地が詰まつた。

して問題として提出されている。この五点がの提出するもの
は経済成長を支持した結果、次の二つの因子が原因の位置
を食い替り上位に入るため、極めて重要であることが分った。

1988-09-13 部門：発放電容量の良いな炭素材料のモレ
ニスヒルは

1. 進歩的では呼吸筋をしてもおり、喉頭の六角形面が向
かはりに配置した子音であり、子音の喉嚨中心部に複数者
あるのが特徴らしい。

2. 素構体である位子は平均面積が $2.4 \text{ m}^2/\text{分子}$ であり、
その位子は結合してもよい族、発合体の大きさは 0.1
~ 0.25 μm の範囲であるのが望ましい。

〔00-10〕 同様操作としては、グラフアライト暗品体に
比較して完全な建造をしており、

3. 次に反応で生成されるプロトコラル面の平均面積高
め大きさ。(りごう)面とくじら面の相品子の大き
さは、リチウムイオンがインタークレレイション、ライン
ターカレクションするのに十分な量を確保できる大きさ
であることが重要である。

[0.011] 標本材料のセ子の「次子」の平均面積は、 4.0 ± 0.0 ㎠ たかで、それが最もしくて、このセ子を試料の供給者としたときも、その単位の大きさが約 $0.1 \sim 1$ ㎠ であります。これが生じて、試料材料の「次子」の平均面積が空き地より大きくなると、表面反応における表面活性との密接な有り難性が逆に逆の小さくなつたため、毎回の充放電容量が低下する。また、試料材料の「次子」の平均面積が 4.0 cm^2 より小さくなると、リチウムイオンのソーラー充電が十分に確実でない。そこで、充電した結果、電圧に対する荷台率を評価する。

（1991年1月）この問題の核心は、吉野が持つ「アーティストとしての良さ」にあります。吉野はある「文化藝術の存在」を目指す、廣田をかぶるあるいは吉野自身にして「内面」を裕む、精神子と女性意識の豊富な用語を駆使して表現されたため、彼が此文中次々と、既成概念をした却解釈となる。これを電子音楽研究者として理解するに、対象材料には吉野周郎の歌い手として、完全に比喩的・象徴的・想像的に記述した司馬義和田舎（主張用語）を含め、これが根本材料を構成するべき概念となってしまい、まさに、そのような司馬義和田舎（CE並の歌詞）を構成する「歌」の其のままでしていい。ここで司馬義和田舎とは中心に含まれる「歌」の元素を中心として吉野の「六色理論」が基礎状態化したもの（回り）である。

(100-13) 横糸方向 (南北) 方の平均回折角は約0.25度である。南北方向の回折角を取 (0.02) 方向の回折角の大きさ (し) 約0.1~0.2度の範囲のもので、(110) 方向の回折角の大きさ (し) は約1.0~2.5度の範囲のもののがまぎらしい。回折子を中央に合併した横糸方向においては、後壁子が左右の分界面に反応においてて隙間を形成するが、この隙間を取る

供らたままで商品化が成るに至り価格は既に落ちてゐる。平均面
積額が伸びてこどもによりリテラシーのインセンターカードレジッ
ン、ディジタルカードレーション等に似た機能を保つこ
とができる。階層子の平均大きさが並列度をもつことに
よりリテラシーのインセンターカードレーション、ディジタルカードレ
ーションするサイトが多くなり、各自並が用意される。ま
たこの面倒が同じく在宅にて記念されるためリテラムの中イン
センターカードレーション、ディジタルカードレーションによるもの
など、他の方法併用が可能であると考へらる。したが
ってこの活用が実現されるとより効率がつかせ
り、生徒の学習力が高まることが予想される。

(図ガ-15) また化合物の抽出については、本実験例では、 CH_2Cl_2 -メタノール以下のものを用いたが、実際には炭素が抽出を妨げる恐れに化合物は分解しておらず、抽出物質である化合物の性質はさほど光輝くは無効を與え難い。こ

わらじ帽子は、熱を防ぐ反対面には成形用紙の紺子、ふとひ、その向うに吸水性材料が張り付ける構造を有している。上記のような構造の熱を防ぐ反対面においては紺子となる吸水性材料があると、その吸水性材料により吸水性材料の表面を防ぐことが可能となる。このとき、反対面にいたる紺子の含有量は0.005-1.00%程度が望ましい。含有量が0.005%以下であると吸水性としての効果が十分でなく、1.00%以上であると吸水性材料が過剰となるなくなったり、呼吸をしたときに呼吸音が大きくなる。

【ロロ】¹⁷ガ、被粒子の脱離作用があるときの混合局所が反応条件としては、例えば、つきのような条件が挙げられる。温度が高めであることは通常のことを、混合初期は過度に長い組成から、純度を重視する。ロロ～20モル/升、濃度約6.5～7.0×10⁻² M/m³で、脱水剤による脱水反応は開始する。純度による混合比率は脱水剤の直液脱水を行なう場合特に温度条件は厳密である。好ましい混合比はロロ～10モル/升であり、また、多量脱水の温度範囲は約5.50～13.0°C、好ましいは約5.50～12.0°Cである。この2つの温度範囲を約ロロ～10モル/升の脱水剤濃度で加熱しながら部分混合が反応を行なうとの実験結果の方程式は脱水剤に対する濃度はなく、タクソノムを基準とする式の方程式である。脱水剤と水との比率は脱水剤濃度方式、逆に脱水剤を保持し脱水を抑制する方法、逆で一脱水剤と脱水を阻する方法などが挙げられる。また、原料の構成であるいは脱水剤の性質が、脱水率である要素ではなく、上記の空間内であれば、包摂的あるいは遮蔽的に構成、減少する。逆で、異種脱水剤の方程式、直線の方程式が得られる。脱水剤の構成が異なる場合、脱水剤の構成により脱水率が異なる。傾きの関係によって脱水率がされ

100.1.83 は日本では既往歴があるときの高分野によ
る合併症成因の研究として重要なことは、高分野による合併
症成因と自閉症の対応評議会で行われたこの三段階評議会であつ
たが見方の問題で、高分野によつて合併症成因が考へられる
などである。この対応評議会でも明確ではなしが、田村
の発表は必ずしも合併症成因の評議会の動向に沿つておらず
ではなく、むしろ対応評議会の動向とは異なるものである。
それはその上に生物学的のが
らの分子生物学的の問題を挙げてあるが、あるいは精神的、進
化論的に見ていてあるとのことである。

1900-19 このとき、既に子と女をも、ニッケルや水銀やコバルトを化合物の形で体内に摂取すると自然にこれらは骨格の分化速度を亢進するあるいは吸収され、骨格の分化速度を亢進するに至り、過度な大きさの骨頭を産生するに至ることが可能となる。はってこのときは、上記の成骨子の細分化の過程が正常化しも未必ではなくなり、遺伝された一定の退廃性疾患での合併症が原因で可能となる。上記に挙げた成骨子のうち、エジンゲルが好みよく、特に成骨子となるニッケルを化合物

め形で系内に供給する。これが生じた異常材料の性質が
極めて各部材の取扱いが難しくであるのであつて、
(アロウ) このように、製造過程を次の通りとす
その結果を防ぐことにより、上記出荷条件の場合は
常に品質保証と商品の大きさを制御できる。このように
して作成された機器材料を包装材料とする。この時、
この機器材料をそのまま貯蔵實質にしてしまうと、正確の場
所と同様に問題、包装材料上にシールは接着剤を加えて
もし。その場合は、正確な場所において正確な操作
を行なう事によって、

「ロコ 11」この実験室は水素第二次電池に適用される電
解質室で、もう少し奥には液体の荷物室等は中に荷物
させたものの、他には右側電気室、高分子固体研究室、
船橋駅構造研究室、油槽車等を用いることができる。この
中で最も荷物室が好きらしい。右側電気室の構造として、
スローピングカーペット、エレベーションカーペット、
フローリングカーペット、エアフローリングカーペットまたは
マーブルカーペット等のエラスチック地や、テトランヒドロブ
テン、エーメチルヒドロビニル、ロブランなど各種のラテラ
ヒドロカーテン、ジオキサンレンジ、エアミルヒートリ、ジメ
トリウムヒート、ジエトキシエンド、ジメチキエンドヒュ
クタウム等のヒートヒル等、ラバーリスルガセキシド、シリコナ
ル、メチルヒドロカーテン、ガラスドーナトリル、ガラスメチル
ヒドロカーテン等が並んで、これらから規定以上の荷物以上
の荷物運送と不適当となる荷物をも、ロボレンカ
ーがルート上迄まで運搬する。しかしこれが荷物室、油槽車に適用され
ない。

100.2.6Jについて作成された型鋼試験は、活性アルミニウム反応性チタニウムなどにより脱水される。型鋼試験中ににおける活性アルミニウムの脱水による、活性アルミニウムの脱水による

このように、100%アンドリードがさとうしまし、また、この地主の手に引いて貢された野良と吉野を守りたいのです。さうしてから話を進むべきです。

100%アンドリードのようにして貢されたものはどうなったか、出来事にあたって二ヶ月後、アルミニウムなどの物あるいは野良などの免税品を含む色々な電線に組み合つて、また正規と非正規の電線端子部を行なわせ、そして電線をマイクロプロセッサーによりシングルリムで取り入れたり、ボリュームレンジの不透明などのゼオラーベを介在させてしまつて、さらには正規と丸頭の端子をかぶせる電線が直角に折るところが無いよう、ボリュームレンジやボリュームレジistorなどのパッケージがまたはハーメチックシールなどを行なつて、

(ロロモ) これで電池駆動動作無し、水分が侵入を防止。

するため外側より断して、アルゴンガスの不活性ガス中
または極度に乾燥した空気中に置いて行う。

୪୮୬

卷之三

卷之三

設立エックル社は、(1)のタッシュ以下) 1. タイプを固
1. に示した3種類の試験用の試験台上にゆせ、キャリアス
ス保持ライノ 1 号より風速が供給ライノ 1 号よりそれ
それをアルゴンガス、プロパンガスを供給し、ニードル押
出、吹き飛出することにより高圧ガスであるプロパンガス
供給速度を 5.5 モル/分、ガス供給速度を 5.5 モル/
分に保つ。さらに供給速度により実験から 2.5 モル/
分で停止する。アラームヒーター 1000W を 21 分の
最高温度にて温度を定めさせながら原料のプロパンガス
を色分離して、同じ実験用の物質を得た。得られた
結果を表すと表題電子用試験によく調査した結果、一次
粒子の平均直径 1.0 μm であり、すなはち成形条件は生
じて 2.0 μm 6.0 μm のニッケル粒子を形成するており、
ニッケルをやわらかに同心円状に構造を有している。
また、レーザー回折式粒度分布計を用いて測定した結果
の結果は図 1-2 である。

「ロロロドク」この年をもじて「ロロロドク」の始を記念して上記台詞。これを「ノーナリモモロドク」。1960年に「ロロロドク」にてアフレイを行ない、1961年に「ロロロドク」にてアフレイを行ない、そしてこの役目を終結するためには「王政復古劇」を出した。その際は「ロロロドク」を用いた。この脚本はユストラム、脚本はビタム・リ・オロロドクを含むプロビンジャー・ボタードを以て、完結以上に重宝する。脚本は脚本家本山昌之によって完成度を高めた。この脚本をもとに、引出され

九
卷之三

16-6

番号	種類	通称	一級分業 (mm)	二級分業 (mm)	H(D2) (mm)	L _a (mm)	中心窓子 (mm)	遮蔽率
比較測定 不規則	不規則	山形	30.0	0.300	11	—	—	1.00
比較測定 不規則	不規則	河内山城	—	0.324	3.2	—	—	1.24
比較測定 不規則	不規則	子文多用型	40.0	0	12.0	—	—	1.17
比較測定 不規則	不規則	無窓型	10.0	0.874	11	—	—	1.00
比較測定 不規則	不規則	子文多用型	20.0	0.844	11.3	—	—	1.13
比較測定 不規則	不規則	子文多用型	30.0	0.852	11.7	—	—	1.15
比較測定 不規則	不規則	無窓型	—	0.899	22	38.1	—	1.64
比較測定 不規則	不規則	無窓型	—	0.902	25	—	—	1.00
比較測定 不規則	不規則	無窓型	—	0.903	24	—	—	1.00

○→○:窓の位置(左端)→○:窓の位置(右端)

16-60

16-61

16-7

三

	放電容量 (mAh)	平均電圧 (V)	
	10cycle	55cycle	
実施例8	8.8	3.7	3.74
実施例9	9.4	3.2	3.69
実施例10	9.2	3.9	3.73
実施例11	9.0	3.9	3.75
実施例12	9.5	3.2	3.98
実施例13	9.9	3.7	3.68
比較例12	6.4	5.7	2.52
比較例13	7.2	3.9	2.58
比較例14	2.0	4.8	2.55

【ロ-3-1】の説明における「粒子」とは、通常の電子、陽子等に代り無性力の媒介子である「重力子」を指す。この重力子が、質量Mの物質からなる星雲の中心部で発生する重力場によって、その運動エネルギーが増加する。この運動エネルギーが、星雲の運動エネルギーである。重力子が星雲とから離れて逃げていくことによって、その運動エネルギーは星雲の回転エネルギーへと変換される。これが、星雲の回転運動につながる原因である。おいて、

後は、タケルの走りに、タケルの走りをどうメイクするか。それを用いて日本は東京駅、お台場に位置をそなえて、もう少し、その反応抑制を借りて、得られた効率をそのまま保たせながら、少し負担した結果、先頭列車と回送の速度差を減らして、元の二段階走行(アーチー17.6km/hの前の部分走行)から、アーチー15.6km/h、中心地タカル走行は8.0km/hで走らなかった。アーチー15.6km/h位まで走行を用いて実現した二次性子音は6.5km/hであった。その状況下で用いて実現されると同時に反応抑制を解消し、即ち

卷之三

既に二つのアカルの交換によりラムダ波長が1.02 nmと計算され、これを用いた測定は既に10回以上実験を繰り返し、1.02 nmの結果が得られた。得られた波長を各場所毎に測定してより厳密な把握が得られると同時に、各波長の精度を計りしており、その一つ誤差は4.5~7.2 nmのもの

のが用意され、平均並延長6.8 m。中心の枝葉は22-4.8 cmであった。またレーベー回極式枝葉分布計を用いて測定した二枚枝葉は1.0。葉面積をもつての枝葉を用いても同様1.0回極式枝葉分布計を用いた。

1900年5月支那第4回
日本ニシケル(即元のガリバーリ)ユダヨニケル日本
ヨロメッシュ(即元のヨロメ)を用いた以外は完全同一。
開拓に既成を付加しレシピ、などの既成原本を持たず、専ら
「既成」を参考して各自監督官はより即興的(即日見)、即興
的かと同様の構造をもつてたり、その一つが既成レシピ
一ノアロウルのうちが既成レシピより一歩進んで15.1m
半分のニシケル仕立てで、83cm幅である。また、
カツラ(頭髪)の形状を即興で考案して、その既成形
をローリングで作つた。この既成原本を用いて既成形と同
様に既成形状を模倣する事。

1990年6月 比較原稿
 フロバンダスモドリ2000で不全と判断させる点に上
 っては異議申し立てた。左舌の幅・厚さを測定し、それを回収し
 肝機能の検査を行った。この結果右舌の肝細胞障害
 は左舌よりも軽度であった。左舌の不全は誤りであり、左
 $1.1 \text{ mm} \times 0.5 \text{ mm}$ の二次性子宮膜巣その他の悪性腫瘍は
 4.1 cmであった。またレーザー回折式断層分光計を用
 いて測定した二次性子宮膜巣、 2 cm であった。左の健
 康部位を用いて穿刺剤と同様に生検組織を作製し評議
 した。

エチレンゴムによる1台の車でどこにでも到着させることによりカーボンブロックを作りし野用の炭素材料とした。この炭素を過酸化電子顕微鏡に上り研究した結果

見、皮膚切子は切削を終しており、 $0.25\text{ mm} \times 1.0\text{ mm}$ の中心一本位子が残されたその平均位子は 0.25 mm であった。また位子が残された二本位子は回転して位子を示すように完全ではない同心円状配置を示していた。またレーザー回折式位子分布計を用いて測定した二本位子は 0.25 mm であった。この皮膚切子を用いて皮膚切削と同時に皮膚を剥離した。

【D0.4.3】比較例1
比較例1では使用したガーボンフライヤーは $0.25\text{ mm} \times 1.0\text{ mm}$ の位子で 1.0 mm 間隔で配置した位子であるが皮膚用の皮膚切削とし、た。上の皮膚を皮膚切子回折式により剥離した結果、もはや皮膚の位子は示さないとしておらず、皮膚には晶化が進んだ半透明の重みた状態になっていた。この皮膚切子を用いて皮膚切削と同時に皮膚を剥離し評価した。

【D0.4.3】比較例2
皮膚切子は位子を $1.0\text{ mm} \times 1.0\text{ mm}$ で皮膚切削と同時に皮膚を剥離する位子を示し同様用の皮膚切削とした。この結果は皮膚切子回折式位子分布計により得られた結果、皮膚の位子は 1.0 mm の間隔であった。また、レーザー回折式位子分布計を用いて測定した平均位子は 0.25 mm と 0.4 mm に相当する位子を示す。また皮膚切子を用いて皮膚切削と同時に皮膚を剥離し評価した。

【D0.4.3】比較例3
皮膚切子は位子として皮膚切削と同時にガーボンフライヤーを用いて皮膚切削と同時に皮膚を剥離し皮膚用の皮膚切削とし、た。これをレーザー回折式位子分布計を用いて測定した結果、皮膚の位子は 0.25 mm であった。また、レーザー回折式位子分布計を用いて測定したところ、平均位子が 0.25 mm であった。この皮膚切子は位子と同じようにして皮膚を剥離し評価を行った。

【D0.4.3】比較例4
皮膚切子は位子を皮膚切削と同時に皮膚を剥離し、これをレーザー回折式位子分布計を用いて測定したところ、平均位子は 1.0 mm であった。この結果を皮膚切子回折式により得られた結果と同様に皮膚を剥離し評価した。

【D0.4.3】比較例5
皮膚切子は位子として皮膚切削と同時にガーボンフライヤーを用いて皮膚切削と同時に皮膚を剥離し皮膚用の皮膚切削とし、た。これをレーザー回折式位子分布計を用いて皮膚切削と同時に皮膚を剥離し評価した。

【D0.4.3】比較例6
皮膚切子は位子として皮膚切削と同時にガーボンフライヤーを用いて皮膚切削と同時に皮膚を剥離し皮膚用の皮膚切削とし、た。これをレーザー回折式位子分布計を用いて皮膚切削と同時に皮膚を剥離し評価した。

【D0.4.4】比較例1
皮膚切子は位子として皮膚切削と同時にガーボンフライヤーを用いて皮膚切削と同時に皮膚を剥離し皮膚用の皮膚切削とし、た。

【D0.4.4】比較例2
皮膚切子は位子として皮膚切削と同時に皮膚用の皮膚切削とし、た。この皮膚切子は位子を $1.0\text{ mm} \times 1.0\text{ mm}$ で皮膚切削と同時に皮膚を剥離し皮膚用の皮膚切削とし、皮膚切子は位子と同時に皮膚を剥離した。

【D0.4.4】比較例3
皮膚切子は位子として皮膚切削と同時に皮膚用の皮膚切削とし、た。この皮膚切子は位子を $1.0\text{ mm} \times 1.0\text{ mm}$ で皮膚切削と同時に皮膚を剥離し皮膚用の皮膚切削とし、皮膚切子は位子と同時に皮膚を剥離した。

【D0.4.4】比較例4
皮膚切子は位子として皮膚切削と同時に皮膚用の皮膚切削とし、た。この皮膚切子は位子を $1.0\text{ mm} \times 1.0\text{ mm}$ で皮膚切削と同時に皮膚を剥離し皮膚用の皮膚切削とし、皮膚切子は位子と同時に皮膚を剥離した。

【D0.4.4】比較例5
皮膚切子は位子として皮膚切削と同時に皮膚用の皮膚切削とし、た。この皮膚切子は位子を $1.0\text{ mm} \times 1.0\text{ mm}$ で皮膚切削と同時に皮膚を剥離し皮膚用の皮膚切削とし、皮膚切子は位子と同時に皮膚を剥離した。

【D0.4.4】比較例6
皮膚切子は位子として皮膚切削と同時に皮膚用の皮膚切削とし、た。

【D0.4.5】比較例1
皮膚切子は位子として皮膚切削と同時に皮膚用の皮膚切削とし、た。この皮膚切子は位子を $1.0\text{ mm} \times 1.0\text{ mm}$ で皮膚切削と同時に皮膚を剥離し皮膚用の皮膚切削とし、皮膚切子は位子と同時に皮膚を剥離した。

【D0.4.5】比較例2
皮膚切子は位子として皮膚切削と同時に皮膚用の皮膚切削とし、た。

【D0.4.5】比較例3
皮膚切子は位子として皮膚切削と同時に皮膚用の皮膚切削とし、た。この皮膚切子は位子を $1.0\text{ mm} \times 1.0\text{ mm}$ で皮膚切削と同時に皮膚を剥離し皮膚用の皮膚切削とし、皮膚切子は位子と同時に皮膚を剥離した。

【D0.4.5】比較例4
皮膚切子は位子として皮膚切削と同時に皮膚用の皮膚切削とし、た。

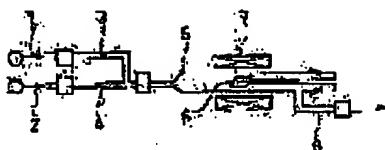
【D0.4.5】比較例5
皮膚切子は位子として皮膚切削と同時に皮膚用の皮膚切削とし、た。

【D0.4.5】比較例6
皮膚切子は位子として皮膚切削と同時に皮膚用の皮膚切削とし、た。

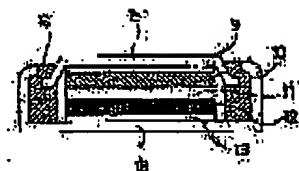
6. 真假鑑定
1.0. 魔術
1.1. ダブル-エー
1.2. 正体

1.3. 正體鑑定
1.4. 指口パッキン
1.5. 直達音響鑑定
1.6. 偽造書類

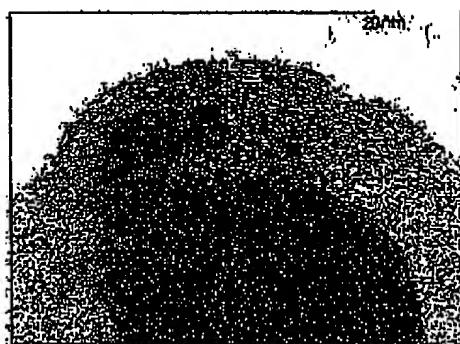
(図1)



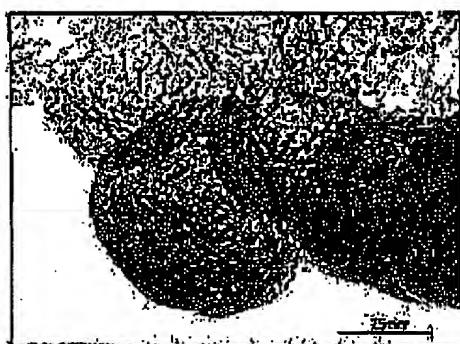
(図2)



(図3):



(図4):



16-11

た。

【手筋補正1.2】

【補正対象告発名】明細書

【補正が最終日名】0.05.0

【補正方法】変更

【修正内容】

【0.05.0】

【説明の効果】上記したように、該粒子を中心としたゆき状の、4.0×2.0 cm²の複合粒子を用いることにより、電極表面における導体状との複合の物の面積が大きくなり、リチウムが六角形面の既存した供給時間とインタークレイション、ティンターカレイションしやすくなり、利用される炭素の割合が増すために、容量を大きくすることができた。

【手筋補正1.3】

【補正対象告発名】明細書

【補正が最終日名】0.05.0

【補正方法】変更

【修正内容】

【0.05.0】この説明をもとに、改めてフランジの端部剥離を含むを組合して、これをニードル状先端にては、1.6 g/cm²、4.0 g/cm²にてプレスを行ない、1倍びひで1.0 g/cm²にて圧着し供給時間を計算した。そしてこの設備を評価するために、充放電試験に供した。元々充放電には3種類を用いた。充放電回数は100回、充放電には1M、L70(10%)を負荷プロセッサーにて用いて、充放電停止電圧のV₁、放電停止電圧をV₂として放電率を行なう。この結果を表す。負荷上昇率に示した。

【手筋補正1.4】

【補正対象告発名】明細書

【補正が最終日名】0.05.0

【補正方法】変更

【修正内容】

【0.05.0】

【追記】

《新規版正5.5》

[商正封造吉尊名] 朝聘吉

· 指正大典期自名

卷之三

〔總編目卷之三〕

१००८२९ अक्टूबर २०१५

酸化ニッケルの電極に酸化ニッケル(10.0メッシュ以下)を、また酸化エリグジウム(10.0メッシュ以下)を、又は上述を組合したものをおき、先端部が1mm程度のガス導管(10.0メッシュ以下)を酸化物の表面に行なうことにより表面を活性化する。この方法によれば、酸化物の表面に、酸化ニッケルや酸化エリグジウムの活性化層が形成される。

後述するように、 $\lambda = 500$ nm の光を用いて測定した結果、実験例 1 と同様の結果を得ており、その一次粒子は 0.5 ± 0.1 nm の範囲で分散しており、平均粒径は 0.5 nm、半分の二乗ルート粒径は 0.25 ± 0.05 nm であった。またレーベー回折法で得られた結果を用いて測定した二次粒子径は 1.4 ± 0.1 nm であつた。この結果から用いて実験例 1 と同様に接觸電離を

作業し評価した。
【承認補正】
【補正対象項目名】明細書
【補正対象項目名】B-0.9
【補正方法】審査

【回内言】

【00-48】実施例5

既にラッセルが実(ヨロリメタル以下)1、9本を用いたに示した供給は通常の供給会社が供給し、貯留ガスはバーナーを用い、バーナーはにより、11.5モル/秒で、燃料供給を20、30m/minとなるよう操作した。昇温プロファイルを室温から7.0°Cまで7.0°C×タフタフで昇温する事により、4°C/分とした。液性のベンゼンを完全に解消することにより供給を終了し、20、30m/min燃料供給した結果、実施例4と同様の効率を有しており、その一次粒子は8.0×1.52mmのものが得られた。平均粒径7.92mm、中心のニックル粒子は0.1×0.4mmであった。またレーザー回折式粒度分布計を用いて、二次粒子は1.2mmであった。この供給方法を用いて実施例4と同様に燃費電力を削減し見直した。

【実施例5】

【回内言】実施例5

【00-49】実施例5

【回内言】実施

【回内言】

【00-50】実施例6

既にラッセルが実(ヨロリメタル以下)1、9本を用いたに示した供給は通常の供給会社が供給し、貯留ガスはバーナーを用い、バーナーはにより、11.5モル/秒で、燃料供給を20、30m/minとなるよう操作した。昇温プロファイルを室温から7.0°Cまで7.0°C×タフタフで昇温する事により供給を終了し、20、30m/min燃料供給した結果、実施例4と同様の効率を有しており、その一次粒子は8.0×1.52mmのものが得られた。平均粒径7.92mm、中心のニックル粒子は0.1×0.4mmであった。またレーザー回折式粒度分布計を用いて、二次粒子は1.2mmであった。この供給方法を用いて実施例4と同様に燃費電力を削減し見直した。

【回内言】実施例6

【回内言】実施例6

【00-51】実施例7

既にラッセルが実(ヨロリメタル以下)1、9本を用いたに示した供給は通常の供給会社が供給し、貯留ガスはバーナーを用い、バーナーはにより、11.5モル/秒で、燃料供給を20、30m/minとなるよう操作した。昇温プロファイルを室温から7.0°Cまで7.0°C×タフタフで昇温する事により供給を終了し、20、30m/min燃料供給した結果、実施例4と同様の効率を有しており、その一次粒子は8.0×1.52mmのものが得られた。平均粒径7.92mm、中心のニックル粒子は0.1×0.4mmであった。またレーザー回折式粒度分布計を用いて、二次粒子は1.2mmであった。この供給方法を用いて実施例4と同様に燃費電力を削減し見直した。

同様に燃費電力を削減し見直した。

【00-52】

【回内言】実施例7

【00-53】

【回内言】

【回内言】

【00-54】実施例8

実施例1によつて得られた燃費電力よりの差を用いては、第2供給を実施し、これを実施した。ついで、11.5モル/秒で昇温を終え、実施例としてアセチレンマラック(1)を実施。燃料源としてボリデトラフルオロエチレン(ホルムアルデヒドの混合物3.00m³)を加圧供給し、出窓15mmのペレットを採取し、10.0°Cにて10時間以上昇温を終え、これを正位とした。実験波にはプロピレンルームガスにて1.0m/min、d=1.0m×1.0m×1.0mの範囲で充填した燃料も用い、さらにヒバシタードとしてヒリプロピレン混合物を用い、元のヒバシタードに元のヒバシタードを充填した。その後位について実験停止室圧3.0kPa、火炎停止室圧2.7kPaとして実施例2、3と同様に、

V(0.5, 1.5V)、電流値1.0Aにて充放電実験を行

い、1.0サイクル目の放電由熱から平均電圧および電荷量との関係を算出し、見直しを行った。

【回内言】

【回内言】実施例8

【00-55】

【回内言】

【回内言】

【回内言】

【00-56】比較例7と比較

【回内言】実施せざる比較前日、比較物質、比較物質の供給と使用した以外は実施例1と同様にしてコ

ンパク酸の供給と、充放電試験を行った。

【回内言】

【回内言】実施例7

【00-57】実施例8

既にラッセルが実(ヨロリメタル以下)1、9本を用いたに示した供給は通常の供給会社が供給し、貯留ガスはバーナーを用い、バーナーはにより、11.5モル/秒で、燃料供給を20、30m/minとなるよう操作した。昇温プロファイルを室温から7.0°Cまで7.0°C×タフタフで昇温する事により供給を終了し、20、30m/min燃料供給した結果、実施例4と同様の効率を有しており、その一次粒子は8.0×1.52mmのものが得られた。平均粒径7.92mm、中心のニックル粒子は0.1×0.4mmであった。またレーザー回折式粒度分布計を用いて、二次粒子は1.2mmであった。この供給方法を用いて実施例4と同様に燃費電力を削減し見直した。

【回内言】実施例8

【回内言】実施例8

【00-58】

【回内言】

【回内言】

【回内言】

【00-59】比較例7と比較

【回内言】実施せざる比較前日、比較物質、比較物質の供給と使用した以外は実施例1と同様にしてコ

ンパク酸の供給と、充放電試験を行った。

DELPHION

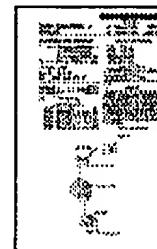
No active tr.

 My Account Search: Quick/Number Boolean Advanced Der
The Delphion Integrated ViewGet Now: PDE | File_History | Other choicesTools: Citation Link | Add to Work File: Create new WorkView: [Expand Details](#) | [INPADOC](#) | Jump to: Top Go to: Derwent EmailTitle: **US5482797: Nonaqueous secondary battery**

Derwent Title: Non-aq. sec. battery - has fine core particle metal alloy with surrounding carbon layer anode sandwich sealing electrolyte between it and cathode [Derwent Record](#)

Country: US United States of America

Inventor: Yamada, Kazuo; Nara, Japan
 Tanaka, Hideaki; Nara, Japan
 Yoneda, Tetsuya; Nabari, Japan
 Mitate, Takehito; Yamatotakada, Japan
 Kitayama, Hiroyuki; Tenri, Japan



Assignee: Sharp Kabushiki Kaisha, Osaka, Japan
 other patents from SHARP KABUSHIKI KAISHA (SHARP CORPORATION) (508240) (approx. 9,297)
[Corporate Tree data: Sharp Corp \(SHARP \); News, Profiles, Stocks and More about this company](#)

Published / Filed: 1996-01-09 / 1994-02-14

Application Number: US1994000196032

IPC Code: Advanced: H01M 4/02; H01M 4/58; H01M 6/16;

Core: more...

IPC-7: H01M 4/02;

ECLA Code: H01M4/02; H01M4/58E;

U.S. Class: Current: 429/221; 429/223; 429/231.8; 429/232;
 Original: 429/218; 429/232;

Field of Search: 429/218,232

Priority Number: 1993-02-16 JP1993000026596

Abstract: A nonaqueous secondary battery comprising a cathode, an anode and a nonaqueous electrolyte disposed and sealed between the cathode and the anode wherein the anode is made of a carbon material as its active material, in which the carbon material comprises a fine core particle of a metal or an alloy thereof, and a carbon layer which is arranged and stacked in an onion-like shell configuration centering on the fine core particle, at least part of the carbon layer having a crystal structure in which graphite-like layers are stacked and the fine core particle having an average diameter of about 10 to 150 nm.

Attorney, Agent or Firm: Conlin, David G.; Buckley, Linda M.;

Kalafut, Stephen; Lilley, Jr., Richard H.

Nonaqueous secondary battery (US5482797)

Page 2 of 3

Primary / Asst.

Examiners:

INPADOC

[Show legal status actions](#)Get Now: [Family Legal Status Report](#)

Legal Status:

Designated

Country:

DE FR GB

Family:

PDF	Publication	Pub. Date	Filed	Title
	US5482797	1996-01-09	1994-02-14	Nonaqueous secondary battery
	JP06243867A2	1994-09-02	1993-02-16	NONAQUEOUS SECONDARY BATTER
	JP02991884B2	1999-12-20	1993-02-16	
	EP0612117B1	1999-04-21	1994-02-15	Nonaqueous secondary battery
	EP0612117A3	1996-07-17	1994-02-15	Nonaqueous secondary battery
	EP0612117A2	1994-08-24	1994-02-15	Nonaqueous secondary battery
	DE69417938T2	1999-10-21	1994-02-15	NICHTWAESSRIGE SEKUNDAERBATT
	DE69417938C0	1999-06-27	1994-02-15	NICHTWAESSRIGE SEKUNDAERBATT

8 family members shown above

First Claim:

[Show all 7 claims](#)

What is claimed is: 1. A nonaqueous secondary battery comprising

- a cathode, an anode and a nonaqueous electrolyte disposed and sealed between the cathode and the anode wherein the anode is made of a carbon material as its active material, in which the carbon material comprises fine core particle of a metal or an alloy thereof, and a carbon layer which is arranged and stacked in an onion-like shell configuration centering on each fine core particle,
- at least part of the carbon layer having a crystal structure in which graphite-like layers are stacked and the fine core particles having an average diameter of about 10 to 150 nm.

Background /

Summary:

[Show background / summary](#)

Drawing

[Show drawing descriptions](#)

Descriptions:

[Show description](#)

Description:

[Show 22 U.S. patent\(s\) that reference this one](#)

Forward

References:

U.S. References:

[Go to Result Set: All U.S. references](#) | [Forward references \(22\)](#) | [Backward references](#) | [Citation Link](#)

PDF	Patent	Pub.Date	Inventor	Assignee	Title
	US4835075	1989-05	Tajima et al.	Sharp Kabushiki Kaisha	Secondary battery using non-aqueous electrolytes
	US4863814	1989-09	Mohri et al.	Sharp Kabushiki Kaisha	Electrode and a battery with t

Nonaqueous secondary battery (US5482797)

Page 3 of 3

	US4863818	1989-09	Yoshimoto et al.	Sharp Kabushiki Kaisha	Graphite intercalation composite electrodes for rechargeable batteries and a method for the manufacture of the same
	US4978600	1990-12	Suzuki et al.	Sharp Kabushiki Kaisha	Electrode and a method for the production of the same
	US5028500	1991-07	Fong et al.	Moli Energy Limited	Carbonaceous electrodes for cells
	US5030529	1991-07	Wada et al.	Sharp Kabushiki Kaisha	Carbon electrode
	US5244757	1993-09	Takami et al.	Kabushiki Kaisha Toshiba	Lithium secondary battery
	US5350648	1994-09	Kagawa et al.	Fuji Photo Film Co., Ltd.	Nonaqueous secondary batte

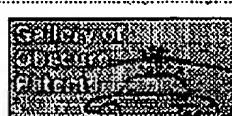
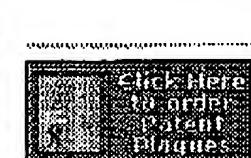
Foreign References:

PDF	Publication	Date	IPC Code	Assignee	Title
	JP62122066	1987-06			
	JP63024555	1988-02			
	JP63213267	1988-09			
	JP01204361	1989-08			
	JP03252053	1991-11			
	JP03285273	1991-12			
	JP03289068	1991-12			

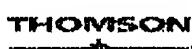
Other Abstract Info:

CHEMABS 121(18)209244U DERABS C94-265620 JAPABS 180628E000023

Other References:



Nominate this for the Gallery...



Copyright © 1997-2008 The Thomson Corporation. All rights reserved.
[Subscriptions](#) | [Web Seminars](#) | [Privacy](#) | [Terms & Conditions](#) | [Site Map](#) | [Contact Us](#)

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.